

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170600520	
法人名	ALSOK介護株式会社	
事業所名	グループホームみんなの家・春日部花積	
所在地	埼玉県春日部市花積108-5	
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケアシステムズ	
所在地	東京都千代田区麴町1-5-4-712	
訪問調査日	令和3年11月14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御入居の方に対して先ず必要なのは、最適な介護・援助と考えます。実態調査では見極めきれない、身体状況、認知度を、各職員が観察して、その情報を共有のうえ、より良い介護を目指しております。ご家族様との連絡を密にして、ご信頼を得るべく努めております。またご本人様の過ごされてきた歴史を重要視して、コミュニケーションを取って行きます。健康状態については往診医師、訪問看護師、訪問歯科医療とも情報を共有しております。訪問医師については、月2回の総合往診の他、緊急対応に応じた個別訪問往診がある為、健康状態の変化に細かく対応出来ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時での情報収集では、利用者の心身状況や認知症状をはじめ、生活歴、性格、趣味嗜好、家族構成、在宅時での生活リズムなどを詳細に聞き取り、アセスメントシートに記載し、職員間で共有して支援に反映できるように努めている。入居後は日々の様子や言動などにも注意して意向を汲み取るようにし、生活記録に記載している。また、家族への対応として、電話でのやりとりなどを記載した「家族対応ノート」を活用し、職員間で共有化を図っている。「家族対応ノート」により、相談員や電話を受けた職員以外でも対応が行えるようにし、コロナ禍で面談の制限がある中、家族がより施設での様子が分かるような配慮に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員会議等で話し合い、地域に根差した生活が出来るよう理念(事業所目標)を作成し実施している。スタッフルーム内に掲示する事で共有し実践している。	事業所理念は各会議にて話し合いを行って いる。また、事業所目標は毎年職員会議で話し合い決定しており、理念・目標に沿ったケアむけて、職員同士で声をかけあい共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、近所の方が会報等を届けて下さっている。外気浴や散歩の際に挨拶を心掛け、良い関係が築けるよう努めている。	自治体から町会のイベント等の紹介状が届くので利用者は楽しみにしているが、コロナ禍のためイベントは中止されている。散歩時には近隣農家から果物の差し入れや野菜の購入をするなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常の様子や支援内容を事業所便りや会社のブログに載せ、家族や地域の方々に向けて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議ではホームの現状を報告する事で理解、協力を求めると共に、参加された方から意見、要望を受け、サービスの向上に努めていたが、昨年・今年とコロナの為開催出来ていない。書面郵送にて代替えている。	運営推進会議はコロナ禍において中止であるが、ホームの一年間をまとめて家族や役所、町会、近隣病院などの運営推進会議参加者にむけて提出し、ホームの取り組みへの理解と協力を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者にも地域運営推進会議に参加して頂き、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。職員、ご利用者様、ご家族様との交流を図り協力関係を築けるよう取り組んでいる。	役所担当課へ定期的に訪問し、ホームの現状を伝えたり、役所主催の研修に職員を参加させるなど協力関係継続にむけて取り組んでいる。研修への参加については職員会議で話し合い決定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に一回、研修を年2回実施し、身体拘束について話し合い、正しく理解をした上で、身体拘束や言葉の拘束をしないケアを実践している。	身体拘束に関する勉強会を定期的に行っている。本部から年2回の身体拘束に関するテストも実施されており、成績によっては個別指導を行い職員一人ひとりの理解が深まるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年4回、研修を年1回実施し、問題提起し職員会議で話し合いをすることで、理解浸透に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用されている方がおり、後見人と連絡、連携を取り支援している。会議等で職員にも報告し後見人制度について実践しながら学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時に十分説明を行い、不安や疑問の解消に努めている。経費等の契約改正をする場合はその精算根拠の説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や意見箱の設置により、ご利用者様、ご家族様の意見を把握し迅速に対応している。コロナ前は家族会などでご家族様の意見・要望を聞いて管理者・職員・外部者に表せる機会を設け運営に反映していた。	家族会を定期的実施しているが、コロナ禍において中止している。面会も制限があるため、利用者の状況は電話で伝え、家族からの意見等も電話やメールで受け付けており、職員会議で検討し運営に反映できるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、気軽に意見や提案が言い易い環境作りを心掛けている。職員会議で話し合いの場を設け反映させている。内容は会議録を作成し、確認後押印をし、共有している。	面談は年2回行っているほか、職員の要望や提案、企画などは管理者が個別に話を聞く時間を作り、スタッフ会議で内容を検討し、運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格修得に向けた支援を会社がバックアップしている。資格修得後は本人の意向を重視し、やりがいや向上心を持って働けるよう、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望者は本社での研修に参加し、働きながら学習できる機会を作り、トレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ前は市のグループホーム連絡会等に参加し、交流・情報交換をすることでサービスの質の向上に努めていた。現在はFAXによる開催となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で今までの生活歴や状況を把握するように努めている。ご本人様が困っている事、不安な事に耳を傾け、また、普段の様子から不安を察して受け止めていく事で、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族様の苦労や不安、サービス状況、経緯についてゆっくり耳を傾けながら聞くよう心掛けている。不安や要望の相談に乗り、より良い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限りその時必要な支援を見極め、柔軟に対応している。他サービスの必要性がある場合は弊社の他事業所の紹介や地域包括支援センターに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症となり出来ない事が増えても、職員は共に生活をしている意識を持ち、出来る限り持っている力を活かせるよう環境を整えている。人生の先輩として尊敬の念を忘れず支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の絆を大切にしながら、職員とご家族様が相談し、共にご本人様を支えていく協力関係を築けるよう努めている。ご家族様の負担が大きくなり過ぎない様、配慮し働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様を通してご本人様がこれまで大切にしてきた馴染みの知人、友人との交流が途切れないよう支援に努めている。	利用者が馴染みの美容院や歯科医院に家族と通院したり墓参りや飲食店へ出かけるなどの支援が中止となっており、電話連絡や利用者の育った地域の食材を利用したおやつ作りをするなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を把握し、気の合う者同士で過ごせるよう配慮している。また、一人ひとりが孤立しないよう職員が調整役になり、皆で楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、契約終了後の相談や支援の希望はないが必要があれば対応に努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で会話や表情、行動から意向の把握に努めている。把握が困難な方には、ご家族様や関係者から今までの情報を得て、本人本位に検討している。	入居時のアセスメントでは生活歴などの情報と共に利用者・家族の意向を聞き取っている。また、ケアプラン見直し時にも意向を再度聞き取り、意思疎通が難しい利用者は、日々の生活での言動や様子から意向を汲み取り生活記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査で得たこれまでのサービスの経過や生活歴を把握し、ご本人様との会話の中やご家族様の面会時に少しずつ情報を収集し、状況の把握、理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりその人らしく暮らせるように、身体状況、有する力の現状把握に努めている。日々の変化や言動に注意し申し送りや職員会議、フロア会議等で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様が自分らしく暮らせるよう、ご本人様やご家族様の意向を聞き職員会議やフロア会議でアセスメント、カンファレンス、モニタリングを行い、連携ナースや歯科衛生士等の関係者とも話し合い介護計画を作成している。	3か月毎のモニタリングと6か月毎のサービス担当者会議を実施し、再アセスメントを行い、ケアプランの見直しをしている。その際には家族への電話連絡や意向記入表の依頼、来所時などで意見を聞き、ケアプランに反映させるようにしている。	コロナ前にはサービス担当者会議の出席を家族に促していたが出席率は低かったため、工夫の検討が期待される。また、利用者の出席はあるものの、出席者名に記載されていないため記載が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化がある場合は詳細を記録し、職員間での情報の共有を徹底している。介護計画を生活記録に反映させ、実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員はご利用者様やご家族様の要望に応じられるよう心掛け、散歩や外気浴を希望時には実施できる様取り組んでいる。また、急な通院介助等が必要な場合は柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の避難訓練では消防署の協力を得ている。コロナ前は月1回の介護相談員の訪問、近隣の教会との交流、ボラアンティアの訪問により、地域との繋がりを通して安全で安心な暮らしを支援していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時に経過を報告する事で、ご利用者様のかかりつけ医と連携、協力が得られるよう努めている。また、ホームの連携医との関係も築けており異変時には相談、指示をもらい適切な医療を受けられるよう支援している。	月2回の内科、歯科医の往診と毎週での訪問看護、歯科衛生士の訪問にて、医療連携連絡表を活用しながら利用者の健康管理に努めている。担当医は往診する内科医が殆どとなっているが、家族通院対応であれば変更は可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算訪問看護の看護師が週に1度訪問し日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行っている。日々の生活の中での変化や気づきを看護師に伝え連携を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活の様子や支援方法等の情報を医療機関に伝えている。ご家族とも連絡をとり状態の確認や退院に向けての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が予想される場合、早い段階で職員全員で支援方法を検討し、ご家族様と相談、説明をしながら方針を決め、共有し支援に取り組んでいる。	入居時には利用者や家族に重要事項説明書を用いて重度化や看取りの指針について説明をしている。また、利用者の心身状況の変化により、看取り介護に移行する際にも説明を行い、利用者や家族の事前意思確認を行っている。	重度化により施設での対応が困難な医療処置などが生じた場合の具体的な内容はホームページにて記載しているが、重要事項説明書などには指針のみで具体的な内容の記載はない。書面などで配布を行うなどの検討が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、職員会議等で緊急時の対応について話し合いをしている。年に数回、対応の確認を行い緊急時にも迅速に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防署の協力を得て避難訓練を実施し、消防署、設備会社担当者にも参加して頂き、避難方法の相談やアドバイスをもらい活かしている。	防災マニュアルを整備して職員間で共有化に努めている。また、消防署参加の避難訓練も実施している。例年であれば自治会などの参加もあったがコロナ禍では控えており、コロナの終息や感染状況の落ち着きによって再開の予定となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様への言葉かけや対応は尊敬の念を持って行うよう職員に指導している。認知症により理解力や見当識の低下があっても、安心して誇りを持って生活出来るよう、言葉かけや伝え方も重視し、指導している。	接遇、認知症研修などの参加やマニュアルの確認を行って、利用者の尊厳の尊重に配慮した支援ができるよう努めている。また、虐待防止委員会が中心となって定期的にセルフチェックを実施して、職員間で意識づけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意見、考え、希望を尊重し、実現できるよう心掛けている。言葉でうまく表出出来ない方には、行動や表情から察知し希望に添うように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのタイムスケジュールはあるが、その人らしい生活が出来るよう、一人ひとりの体調や希望に配慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	会社の訪問理美容を2か月に1度程度依頼し、希望者は散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせて食事形態や食器、配置を工夫している。家事の得意な方には食器拭きを手伝って頂いている。	利用者が一緒に調理する食事レクリエーションを毎月実施している。食事開始前にはメニューについての説明などを行ったり、利用者の食後の食器拭きの手伝いなどとして、食に対する意識を向上させるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を生活記録、チェック表に記録をしている。職員間で情報を共有し、摂取量の少ない方には体調を観察し、無理のないよう配慮しつつ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけや、案内、介助など、能力に応じた、必要な支援をしている。歯科衛生士からもアドバイスを受け、適切な清潔保持が出来るよう努めている。週3回は入れ歯洗浄剤での洗浄も実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや案内をする事でトイレでの排泄を促している。個々の様子に注意しトイレへ行きたいサインを察知し素早く案内する事で、排泄の自立支援に努めている。	排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。日中は車イスの利用者でもトイレに誘導するようにし、排泄リズムが合うことにより、リハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水を促し便秘予防に努めている。また毎日ラジオ体操をし体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めずに、一人ひとりの体調や希望に合わせた支援をしている。入浴拒否のある方は無理強いせず、気分の良さそうな時にお誘いをし気持ちよく入浴できるよう努めている。	入浴実施表を活用して、基本、3日に1回の入浴を実施している。拒否などがみられた際には、無理な誘導は行わず、時間を置いたり次の日への変更などの対応を行っている。スムーズな誘導方法などはケアプランに記載して共有化を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠の為、日中の活動時間の重要性を理解しレクリエーション等にお誘いしている。個々の病気や体調を把握し、日中の適度な休息も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導、服薬管理で職員が把握、確認をしている。薬の処方や用量が変更になり、状況の変化が見られる時は、連絡ノートに詳細を記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を手伝って頂く事で、やりがいを感じ、さらに自分の居場所を感じて頂けるように支援している。その方にあつた得意な事、役割を見つけ、やりがいや楽しみを感じられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に職員と外気浴や散歩に出掛けている。出来るだけ希望時に対応出来るように心掛けている。	コロナ以前では、外食や買物外出などを行っていたが、コロナ禍においては人と接する場所は避け、施設周りの散歩や中庭の畑仕事、駐車場での外気浴、お花見などの外出を実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力や希望に応じてお金を所持している方もいる。職員は自己管理の大切さを理解し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望が無く実施していないが、希望時には可能な限り支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った掲示物を展示し、季節の移り変わりを感じられるようにしている。照明等の調整、テレビの音や職員の会話のトーンに注意し、落ち着いた雰囲気与生活出来るよう配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	季節に合わせた壁飾りを利用者とレクリエーション活動で制作し、共有スペースに飾っている。掃除の際には定期的に換気も行い利用者と一緒に掃除をしている。また、フロアには職員の写真付き紹介を掲示して、職員の名前などが分かりやすい配慮も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの椅子以外に廊下に椅子を置き、他者を感じながらも一人で過ごせる場所が確保できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様、ご家族様と相談しながら、慣れ親しんだ物や写真を持って来て頂き、安心した空間になるよう工夫している。、自分の居場所として認識し、安心した空間になるよう配慮している。	自宅で使用していたタンス、テレビ、イス、仏壇などの持参が可能となっており、希望があればマットレスを敷いて布団が使用できる対応を行っている。また、居室入口にはレクリエーションで作った利用者の作品などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは大きな文字と絵で分かりやすいように表示している。危険がある場所には扉に鈴をつけて職員が素早く気が付き対応ができるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームみんなの家・春日部花積

作成日 : 2022年1月8日



## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	昨年来の新型コロナウイルス感染症蔓延の為、現在地域・市町村との付き合いが大幅に減少してしまっている。	地域との付き合いを、一昨年状態にまず戻したい。市町村の連絡会議に参加し、運営推進会議等の再開、介護相談員等の受け入れなどを以前の状態に戻す。	地域運営推進会議の開催。オレンジカフェの開催。健康増進課との連携による、地域健康向上企画の開催。(以上は新型コロナウイルス感染症の終息を見ての開催になります)	6ヶ月 コロナウイルス感染症終息
2		ご家族様へ、ご入居者様の情報を、これまで以上に発信したい。新型コロナウイルス感染症の為、稀薄になっている、ご家族様とご入居者様との絆を深めたい。	情報発信。面会を再開。(安全で尚且つ簡易に出来る面会を目指す)	ブログ発信数を増加。スマートフォンを使用した、TV電話。併設の旧デイサービス建物を活用した、リモート面会。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。